協働学習
支援ツール
【小・社会】

ノート機能・アンケート機能

小学校　第5学年　社会
「水産業のさかんな地域」

（１）ねらい

養殖業や栽培漁業の仕組みを調べる学習活動を通して、その仕組みを知り、「つくり育てる漁業」が行われているのは生産が安定するだけでなく、これからの水産資源を守ろうとしているからであることを理解することができる。

（２）評価規準

養殖業や栽培漁業の仕組みを理解し、「持続可能性」という見方・考え方を働かせ、「つくり育てる漁業」が行われているのは、漁師が毎年安定して漁業を行うことができ、生産が安定するだけでなく、これからの水産資源を守ろうとしているからであることに気付き、自分の考えを表現し、まとめている。（思考・判断・表現）

（３）学習展開（５／１０）

過程	学習活動	指導・援助（留意点）
導入	１　資料から、これまでの漁業との違いをつかみ、課題をつくる。 「つくり育てる漁業」は、どのような工夫や努力によって行われているのだろう。 ２　個人で追究する。	【ＩＣＴ活用の工夫】 ・必要に応じて、端末間で画面を共有して考えたり、発表したりすることができるように事前に設定する。
展開	３　分かったことを交流し、ことば「養しょく・さいばい漁業」を確認する。 ・いけすの中で育てている。 ・他の魚を噛んで傷つけてしまわないように、とらふぐの歯切りをしている。 ・魚の卵をかえして、川や海に放流している。 ４　どうして「つくり育てる漁業」が行われているのか考え、話し合う。 ・魚がとれなくなる心配が少ないからではないか。 ・前の時間に魚をとり過ぎる問題があったため、増やしているのかもしれない。 ・養殖業で働く人が増えてきていることも理由ではないか。	【ＩＣＴ活用の工夫】 ・ICT端末上で共有している追究資料に書き込んだり、新たな資料を調べたりして追究している姿を価値付ける。 ・机間指導を通して、根拠を明確にして追究するよう声をかける。 ・必要に応じて、ペアでの交流を位置付ける。 ・根拠を明確にしたり、既習内容とつなげたりして話す姿を価値付ける。
終末	５　自分でまとめを書く。 「つくり育てる漁業」は、いけすの中で育てたり、卵をかえして川や海に放流して自然の中で育ててからとったりしている。それは、限られた水産資源を守り、魚を安定してとることができるようにするためである。	【ＩＣＴ活用の工夫】 ・想定外のトラブルが起きたとしても、その時できる最善の方法を考えて活用する姿を価値付ける。